

『暁の宇品』(堀川 恵子著)を読んできた。著者はノンフィクション作品を次々と発表。第1回城山三郎賞、第47回大宅壮一ノンフィクション賞と第15回早稲田ジャーナリズム大賞、第23回司馬遼太郎賞受賞を受賞している。

人類初の原子爆弾は、なぜ“ヒロシマ”に投下されなくてはならなかったか。日本の「海の戦争」を支えた輸送基地=宇品港の3人の司令官と、軍都・広島が背負った「宿命」に迫り、日本軍事史上の最重要問題に光を当てる。

日清戦争、上海事変、ガダルカナル、そして8月6日。日本の「海の戦争」を支えた輸送基地=宇品港の三人の司令官と、軍都・広島が背負った「宿命」。日本軍事史上の最重要問題に光を当てる傑作。明治時代に東京の首都機能が広島市に移っていたと初めて知った。

ノンフィクションなので、淡々と話は進む。司馬遼太郎の『坂の上の雲』(伊予松山出身の三人、無敵を誇ったコサック騎兵を破った陸軍の名将・秋山好古、その弟で海軍の名参謀・秋山真之、そして俳句の開祖正岡子規。清新な次代の風をうけて夢をふくらませた各人の青春を描く。)と併せて読むとよいかもかもしれない。